

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872300419		
法人名	有限会社 豊地質		
事業所名	グループホームゆたかの郷		
所在地	兵庫県三木市宿原1263-86		
自己評価作成日	令和2年3月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和2年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>特に力を入れている点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の保清(着衣・整髪・皮膚の状態・体臭・口臭等) ・ホーム内で臭いがないこと <p>アピールしたい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が永年勤務して下さっていること ・二階ベランダからの見晴らしが良いこと ・庭には四季折々の花が咲いていること

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>【優れている点】・事業主及び管理者(事業主妻)宅が隣にあり、事業主による出身地より持参のしだれ桜の育成やベランダ下の花壇等の行き届いた手入れにより四季折々の花が咲き、また高台にある事業所立地環境によるベランダから見晴らす広大な景色が季節毎の心地よい景観を維持し、利用者・家族に喜ばれている。・常勤職員2名は、当施設17年の永年勤務者であり、かつ9時から18時の勤務時間特性により、管理者と共に利用者・家族への日常ケアへの信頼感を高めている。【工夫点】・手指消毒アルコール、マスク等の日常品等は、日頃からの常備品として備え、専用ノートできめ細かい管理がなされている。・掃除がいきとどき、各部屋もきれいに整理整頓され、毎朝のモップがけとアルコール消毒で感染予防対策を徹底し、清潔な環境維持に工夫をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が安心して、自分らしく暮らせる場所となるために、他事業所と比べ、同じ職員が関わる時間が多いという特性を生かしたケアを日々実践している	事業所理念はパンフレットや玄関及び居間に掲げている。管理者と職員は、永年勤続及び9-18時勤務体制の特性を活かし、管理者と職員は、朝礼で理念を共有して日々のケア実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回程度、地域ボランティアの方々との演奏会を催し、紙芝居も楽しませている	事業主が地域自治体役員であり事業所自体が自治会に入り、防災訓練の協力や、民生委員も参加の地域の方々とのボランティア演奏会(大正琴演奏と歌唱会)や紙芝居等事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や定期的な地域ボランティアの演奏会などの場で日頃の実践の経験から得たことを事例として説明して、認知症の方に対する理解を深めていただく		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方々の意見を参考に、職員全員で話し合い実践に生かしているまた、出席してくださる市職員の方と地域情勢などの情報交換をしている	家族、地区長、民生委員、自治会役員、包括支援センター(市職員)担当参加で定例報告後、意見交換を行い、初参加の方の要望に応じ部屋やベランダからの眺望を体験頂く等出された意見等はサービス向上に活かしている。	リスクマネジメントの事故・ヒヤリハット報告はなされている。各月発生 of 事故要因数やヒヤリハット数のグラフ作成による見える化による報告等が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問な点や不可解な点など、常に市の担当者に相談を行っている	日常的に必要な課題は都度市担当者に連絡・相談を実施している。市職員の包括支援センター担当には運営推進会議で事業所実情やケアサービスの取組を伝え協力関係の取組は実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の適正化のための指針を定め、運営推進会議において身体拘束適正化委員会を開催している	運営推進会議で身体拘束適正化委員会開催活用に同意を貰い、研修計画に基づく実施と共に、日々の朝礼時に身体拘束防止に関するカンファレンスを実施し、理解と発生防止へのケアに取り組んでいる。玄関施錠は、日中時間帯はフリーとしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を実施しており、日々のカンファレンス等でも啓蒙を行っている	年度計画に同研修を明示し、理解への研修を実施しと共に日々の朝礼時に虐待防止に関するカンファレンスもを行い、事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は社内外の研修を通じ制度を学び必要な場合はケアカンファレンス等協議している。また事業所の目につきやすいところに市等の告知を提示している	現状成年後見制度活用者はいないが、職員は内外の研修参加等学ぶ機会を持ち、必要時には、日々の朝礼時のカンファレンス等で協議、関連資料は居間の掲示板に掲げ、必要時の活用への支援をしている。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず利用者、家族に対し説明を行って理解、納得を図っている。やむを得ない場合を除き極力本人の意思決定、署名頂くよう努めている	契約締結時等は利用者・家族の関心事である急変時の対応や看取り等十分な説明を行い、極力本人の意思を尊重し、理解、納得を図っている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは常に、コミュニケーションを図り、家族等とは、花便りや手紙、電話等で密に連絡をとり、意見を運営に反映するようにしているまた、直接言にくい方の為に、2カ月ごとに無記名の家族意見書を返信用封筒を同封しお送りしている	利用者とは、常にコミュニケーションを図り、家族等には花便りや手紙、電話等密に連絡をとり意見・要望は運営に反映する仕組みをとり、2ヶ月毎に無記名の家族意見を入手し分析し運営に反映している。今回実施の家族アンケートでも高い満足度が視える。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所に代表宅が隣接しており、管理者が常駐し職員と意見交換を行いやすい環境になっており、意見交換の中で良い案があったら速やかに実践するよう努めている	事業所の隣が代表者宅であり、管理者が常駐し、日々朝礼時にコーヒーを飲みながら意見や提案等出しやすい雰囲気や日常ケア時に意見交換等行い良い案があった時には、速やかに実施し反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の状態を把握できている。家庭の事情に合わせて休暇を与えるなど職場環境の向上に努めている。社会保険労務士や市に相談している			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を開催している事業所から、研修開催に関する情報をファクスで受け入れる体制をとっており、情報が届いたときには、職員に研修の参加を支援している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会が3か月毎に持ち回りで開催されており、毎回出席して情報交換を行い入居希望者の紹介もしている			

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族等周囲の支援者だけでなく必ず本人から直接困りごとや不安を探るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に出来る限りの時間をとって、家族との面会を重ね、情報収集を行いながら、ホームの生活等を説明し、信頼関係づくりをし、入居後は頻りに電話連絡をして安心していただけるよう努めている。月1回管理者が手紙をしたため家族に近況を発信している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が介護保険のみでなくインフォーマルサービス、本人や家族のエンパワメントを探り他事業所への相談、紹介など公平な対応を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃やリース作りなどの作業を行うときは、必ず職員が入居者と一緒に行う、食事は同席するなど関係性の向上に努めている。また、一人ひとりのアルバムを作り、職員と共に過ごしていることで共有できるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や家族意見書で家族の意見を取り入れるように努め、本人と家族の絆を大切にしながら、支えていける関係を築いている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方からの面会については本人、家族の意向を踏まえ望まれた場合快く応じている。不定期ではあるが本人の馴染みの場所にお連れして関係継続を支援している	事業所を利用しても今まで本人が培ってきた人間関係や社会との関係が途切れないようにしている。訪ねてくれた友人とはお部屋で会話をしたり、日ごろの暮らしや思い出写真等の詰まったアルバムを見ていただく。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者同士の関係をよく観察して食堂やリビングの席順を考慮し、孤立せずに入居者全員が家族のように過ごせるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合には電話をするなど関係性を大切にしている。また家族に会ったときは気軽に声をかけている		

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を全職員が言葉だけでなく非言語コミュニケーションでも把握するように努めている。困難な場合は本人の日頃の様子を慎重に観察し本人本位で検討を行っている	利用者の言葉や言葉にしづらい思いを、日々の行動や表情或いは日々の利用者同士の会話からその真意を推し量ったりそれとなく確認するようにしている。職員全員で内容を共有し本人の視点に立ち話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず支援者から情報提供を求め入居後は本人との会話や家族の面会などの思い出話を傾聴し、新たな情報が得られたら記録、職員間で共有するなどこれまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、ささいな情報でも共有して把握に努めている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を取り入れ、主治医、訪問看護師と相談して、職員全員で話し合ってから介護計画を作成している。計画作成担当が本人、家族に対し説明を行っている。課題に対し細やかにモニタリングを行っている	介護計画はアセスメントとモニタリングを繰り返しながら設定期間ごとの見直しはもとより、本人、家族の要望や変化に応じて臨機応変に見直している。機能低下等による下階へのお部屋移動や嚥下評価のもとムース食への変更など課題に沿い主治医や看護師に相談し対応策を職員全員で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などや気づきを個別の介護日誌に随時記録し情報共有に努めている。毎朝ミーティングを行いケアの実践や計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の事業所や地域の自治会と情報交換するなどしてさまざまなニーズに柔軟な対応ができるよう努めている		

自己	第三	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々や他の事業所と情報交換し、地域資源の把握に努めている。また、本人の豊かな暮らしにつながる地域資源があれば、利用できるかを検討している			
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族が選ばれたかかりつけ医と事業所が協力して、本人に快適な生活を提供できるよう支援している。専門医の外来受診が必要な時にはかかりつけ医と連携し外来の付き添いや同行している	これまでのひとり一人の受診状況を把握し、本人、家族が希望する医療機関・医師の往診等を受けている。専門医受診は、基本家族が付き添い受診される。看取りに向け認知症ケア専門医の往診が始まる。適切な医療が受けられるように支援し努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が気付いたことや変化を訪問看護師に伝え適切な看護を受けられるように支援している			
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際安心して治療できるように又できるだけ早期に退院できるように病院関係者に情報提供をし、入院後は定期的に面会に行き情報交換、相談を行っている。また管理者が定期的に訪問し病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関に対して、入院の目的を早く達成してもらえよう、医療介護連携シート等を活用し入院経緯や本人の普段の状況や特徴をいち早く提供している。また日ごろから病院関係者や地域連携室と密に連携を図り速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の方針について本人、家族と話し合いの場を設け主治医との話し合いにも積極的に同席している。本人、家族の意向を尊重し事業所としてできる事、対応を丁寧に説明し同意を得よう努めている。職員や協力機関と方針を共有しチームとしての支援づくりに努めている	終末期のあり方について事業所の対応など段階ごとに本人家族の意向を確認し同意を得ている。主治医、看護師と連携を図りながら安心して納得した最期を迎えられるようにしている。随時意思確認をとり、本人家族、事業所の状況の変化のたびに話し合いを繰り返し積み重ねて取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員5名が応急手当普及員の資格を取得しており、急変時、緊急時の対処方法表を、目に付くところに設置しているまた、AEDを設置している			
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、近隣住民へも災害時の協力を要請して、緊急連絡網に電話番号を記載と自動通報装置連絡先に登録させていただいている	年2回運営規程に基く非常災害対策として避難訓練を実施し、近隣住民の緊急連絡網の協力を得て避難できる方法を全職員が身につけると共に地域の協力体制を築いている。備蓄は隣の事業主倉庫に準備され管理されている。	本年度はいずれも日中の訓練実施であった。夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で利用者の話をする時はインシヤルで話し排泄介助の際、他の利用者に悟られないように席を離れてから声かけをするなどプライバシーを尊重した対応を心がけている	人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして利用者の誇りを傷つけてはいないか、プライバシーを損ねるものになっていないか事業所として日常的に確認している。さりげない言葉がけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり自己決定できるようにその方の言動を否定的に捉えないように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	清掃等の作業を行う時参加に消極的な場合は、無理に参加を促さず本人が自発的に参加してくるまで見守りをする等、一人ひとりのペースを大切に支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	緊急時を考慮機能性を優先しつつその人らしい身だしなみやおしゃれを大切にしつつ職員は入居者全員との調和が保たれるよう気配りをしている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、食材について説明を行い、入居者と職員が共同でお茶入れ、台拭き、お箸配り、配膳などの出来ることを役割分担して、食事を行っている	菜園でつくった野菜を取り入れお味噌汁やスープ、手作りゼリー等提供している。野菜の皮むきや配膳など個々の力を活かし一緒に取り組む。昼食は職員と利用者が同じテーブルを囲んで見守りしながら楽しく食事できるように雰囲気をとっても大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の観察から得た情報、体重、主治医に相談したことなどを考慮して、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた、食事内容、水分摂取量を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、失禁する前に、トイレ誘導する等、排泄の失敗やおむつの使用を減らすよう支援しているまた、入居され始めのとき、表示板を使用してトイレの場所を覚えていただくようにしている	トイレでの排泄を可能にするために、利用者の様子から敏感に察知し排泄パターンに応じた個別の支援を展開している。トイレ内汚染防止に使い捨てシート の活用、入居間もない方へはトイレ表示を工夫し生活リズムに沿う使いやすいトイレ整備に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝、夕のテレビ体操、階段を利用した運動、ベランダでのストレッチ等の生活リハビリで予防に取り組んでいる		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は出来る限り本人の意思を尊重している	本人の安心と満足、安全な入浴のため本人の意向を聞きながら週2回個別の入浴支援を行っている。重度化に伴い清拭を行う場合は、車いす移乗していただき脱衣所での足浴などくつろいだ気分をととても大事にしている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠していただくように、日中リース作りや生活リハをしていただくようにしている休憩は、入居者のその日の状態、気候などを考慮して適宜していただくようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者には服薬時、説明をし、各自の服薬表を、ファイルして、職員がいつでも確認できる場所に保管しているまた、薬の変更があり状態の変化がみられる場合は、主治医に相談し、バイタルチェックをこまめに行うなどしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを行うときは、できることできないことを把握して、一人ひとりができることを役割分担しているまた、日頃の観察から、入居者の状態に合った、楽しみごとを提供できるように支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候を考慮して可能な限り、入居者同士の話題作りのために外出する機会を設けている。また、状態の良い入居者は、本人の希望で買い物、散歩などを付き添うなど個別に対応している	なるべく日中は体を動かしラジオ体操をしたり短時間でも毎朝ベランダへ全員でお茶をして気分転換を図る。気候により全員車2台に乗りコスモスや桜見学にドライブに出かけている。職員と1対1で近隣への散歩など本人の状態や季節、希望や地域のその時々に応じて支援に取り組んでいる。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域のイベントに参加した際はたこ焼きなどの好みの物を買って頂くよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	元旦は、入居者全員が、家族と新年のあいさつをできるように電話して、その他の場合でも家族との電話は、必ず本人に代わって会話をさせていただけるよう支援している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、入居者が不快や混乱をまねかないように備品の配置を考慮し、また、気分転換に外気浴ができるようにベランダを活用し、夏場は、すだれで快適に利用できるようにするなど季節を感じられる工夫をして、居心地よく過ごせるようにしている	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないよう配慮し、神棚や鑑賞魚槽等置き、又、利用者作成のリース等を飾り、生活感や季節感を取入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと食堂にそれぞれ、ソファやイスがあるので、1人ひとりが思い思いに過ごせるようになっている。また、仲の良い入居者同士がくつろげるように居室にテーブルとイスを設置している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	所持品を持ちこまれている方は少ないのですが、観葉植物を置いたり、リースの壁飾りをする、窓から野菜、果物の成長を楽しむようにするなど、居心地よく過ごせるような工夫をし、一人一人の状態に合わせてベッドの配置を換えたり必要に応じて介護ベッドを利用して頂いている	居室は、眺望の良いベランダがあり、室内は、リースの壁飾りやその方に応じた机やイスや好みの写真等、一人ひとりの状態に合わせ必要に応じ介護ベッドを利用し本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを各所に設け、なるべく見守りで自立歩行をしていただいている。他にも、トイレに大きな標識をして、トイレの場所を覚えていただくようにしている		